正副議長就任記者会見　会見録（概要）

日　時：平成２６年５月１６日　１７時～
場　所：議事堂３階　全員協議会室

（議長）今日は三重県議会の本当に１番の大事な議長、副議長並びに役員の改選が行われたわけでございます。私を議長として決定していただき、本当に身の引き締まる思いで一杯であります。所信表明の時に申し上げたとおりでございますが、今のこの時代背景を思いますときに、大変大事な時期にあるというふうに認識しております。そんな認識のもとにですね、こんな大事な要職を引き受けさせていただくということは本当に光栄と同時に、より一層、責任の重さを痛感しておるというのは真の私の思いであります。そんな時でございますので、今年１年間、副議長ともども身を挺して、三重県の県政の進展のため、あるいは三重県の将来を思ってですね、１年という限られた期間ではございますけれども、全力投球で頑張っていくという決意でございます。そんなことで、今日は選んでいただいたことについて、私の生涯にとって、これ以上の身の引き締まる思いはないと、７３年生きてまいりましたが、そんな今日１日でございました。そんな心境でございます。

（副議長）今日突然というのか、全然想定していなかった副議長ですので、記者会見と言われると、心の準備も、ものを言う準備もしていないんですけれども、今日なったわけですから、向こう１年間、三重県政、県民のために一生懸命やっていくのかなと、そんなふうに思っております。平成６年から平成１７年まで小俣町長として合併もあり、いろんな問題をつまづきながらもそれなりにやってきたという多少の自信がありますので、この三重県という広域自治体を何とかそこら辺のことを活用しながら、１年ですからなかなか発揮はできないと思うんですけど、少しのきっかけがつくれればなと、そんなふうにも思います。また、三重県議会、先進議会と言われているんですけれども、やはりまだまだ魂が入っていない部分もあるような気もします。そういう意味で通年制議会も魂を入れていく必要があるんかな。また、今回私は８年目、２期を満たずに副議長という重責を担うわけなんですけれども、これからやっぱり資質を向上し、１期生であろうと２期生であろうと５期生であろうと、やはり議長・副議長になれる一石を投じることができたかなと。これが今回の私はひとつの結構大きな仕事をしたんではないかなと、そんなふうにも思います。自分としてはサプライズであったかなとも思っております。

（質問）昨日の所信表明であるとか、今日の議長就任ご挨拶の中で、集大成であるというふうにおっしゃっていますけども、この集大成の意味というのはどういうふうに捉えたらいいのでしょうか。

（議長）どう捉えているのか私はちょっと、取り方にもよると思うんですが、私、四日市市議を１０年間、県議として先日２５年の表彰を受けたわけですが、ということは３５年、３６年目を迎えているわけですね。そんな中でいよいよ議員としてそのような時期に来ているかなと、このように思わさせていただき、今回の三重県議会の議長という大役をお願いをし、そして今回はそれで決定をしていただいたということで、議員としてのこれが集大成という表現にしたわけですが、貴重な経験を積ましていただきましたので、その経験をもとに、この１年間がまさしく集大成で、所信表明で申し上げましたけれども、その貴重な経験を積んだ中で、じゃあ三重県政としてどのような方向付けをしていくかの、これは本当に大事な方向付け、在り様を今回この１年でやらなきゃならないのかなと。そして、次の世代にどう引き継ぐか、そして次の世代の方々が、我々の先達がよく考えてってくれたなというふうな思いができるように、なかなかそれは私１人では、あるいはこんな短期間の１年ではできないかも分かりません。ある程度そんな思いを持って全てのことに対応するということですわ、私の考え方は。基本はそこ。いろいろ課題はありますよ、課題の中においても、そういうようなことが基本的な私の政治信条としてあり、それを信条としていろんなことを対応していくということになるわけですね。

（質問）いや、だから、普通政界において集大成という言葉はイコール引退花道と捉えるんですね。その範疇でいったら、今おっしゃったことをまとめると、普通ならば、議長がおっしゃったのは、要は来年も県議選に出られてその後もやられるという意欲に感じられましたけど、普通集大成と言えば、今期これで議長になったんで、来年は県議選出ませんよというのがこの政界の常識ですよね。そういう捉え方というのは間違っているんですか。

（議長）捉え方はいろいろあるとは思うんですがね、はっきりそれを、今そうだという断言はちょっと今日は差し控えたいと思います。

（質問）今日は差し控えるということは、要はこの集大成という意味は、今期で議長になったんでもう引退されて、もう来年県議選には出ないという意味じゃなくて、来年県議選はひょっとしたら出るかもしれんという含みは残したというふうな解釈でよろしいんですね。

（議長）そこら辺はですね、取り方はお任せしておきますけれども。

（質問）いやいや、お任せって言ったら、じゃあそういう形で書いたってそれは間違いじゃないとか、間違いであるとか、そういうことはクレームをつけられなくなりますよ。そこははっきりされたほうがいいんじゃないですか。

（議長）もうお任せしておきますわ、どうぞどうぞ、書きたければ書いていただいて

結構ですし。

（質問）そうですか。

（議長）もうそれは私の口から今日は申すことは差し控えます。

（質問）続けてですけど、平成１９年、岩名さんが議長になられたときから、そのときに１００代議長ということでメモリアル行事として議長定例会見という全国で都道府県議会、市町村も入れて全国初なんですけど、それをやられていますが、この定例会見を今後、今日は就任会見ですけど、月１回定例会見やられていますね。それは続けられる意志はおありなんですか、それとも、もう私の場合はやめるという話なんですか。

（議長）いやいや、これはもう引き継ぎでもそういうことを言ってきてくれていますし、月１回の定例会見を従来どおり実施していくことには、私は何も嫌とも何も言っていませんし、それはどこかに何かありましたか。何も私言っていません、それは。

（質問）いや、今まで議長になられた方で会派内では定例会見はかなわんのやと、なかなかそれはやりたくないなとおっしゃっていた議長さんも２人ばかりいらっしゃるので、その流れから永田議長はいかがかと今お伺いしたんです。

（議長）それは私の場合は、そんなに頑なに断るというような、そんな気持ちはありません。

（質問）ということは、続けられるということですね。

（議長）はい、それは結構でございますね。いいんじゃないですか。

（質問）こちらはかなりしんどいですけどね。

（議長）それは、前議長も前々議長も続けたことでございますし、何も私はこだわっておりません。

（質問）あと、昨日の所信表明も、それからずっとおっしゃってるんですけど、次世代へ残したいという形で、新政みえの三谷さんもちょっと質問されたと思うんですが、残したいものの中で、何かっておっしゃったときに、次世代に残すものということの具体性っていうのはあまりなかったんですけど、昨日おっしゃったこと以外で次世代に残すものという明確なイメージは何かおありなんですか。

（議長）昨日は時間もなかったんでね、いろいろとそれは課題の中で代表的なやつを、私が今まで取り組んできた代表的なものを申し上げただけであって、県政全般において全てがやっぱり、そういうことを原点から考えておかなきゃいけない問題であると思いますよ、全てが。その中でやっぱり私は今まで自分が取り組んできた一番のもとの少子化であり、それから、今一番これは戦後の政治の中で一番大事な転換期だというふうに自分自身は認識しておりますし、やっぱり食という問題を考えれば一番大事なことでございますし、農政は今考えるべき問題であるんじゃないかな、そしてもうひとつ、本当に時間があればいろいろと言いたかったですが、防災で今大変ですよね。防災も申し上げたかったけども、これはやっぱりきちっとしていかないと、次世代のことを考えればこういった問題は大事な問題やと私は思うし、他にもまた、そういうことは重要課題としてまだまだ申し上げたいことありますけれども、ポイントとして、質問があったので私は申し上げただけの話で、県政全般について次世代にどう残すか、どう引き継ぐか、これは全てにおいて大事かと思います。

（質問）ただ、別にこんにゃく問答する気はないですけど、全体にもともと首長と議員というのは立場が違うわけで、首長の場合は全方位的な方向的な、そういうふうな全県政という話は分かるんですけど、議員というのはもともと得手不得手があってですね、ここは得意分野、ここは不得手分野で、それで得意分野をやるのが議員という役割の部分が結構あるじゃないですか。それからいくと、今議長の場合は少子化対策であると、それと農業政策であると、それと防災対策であると、この３点というのを特に推し進めていきたいというお考えがあって、議長に就かれて、この３政策についてはかなり、そういう関係者呼んでのトップセミナーやるとか、何かそういう具体的な構想というのはおありですか。

（議長）私の場合は、三重県の元気を、活力をどうつけていくか、これがひとつの大きな、今まで取り組んだ中で私の重点的な、得意というか、一番関心をもって、一番力を入れてきた問題なんです。やっぱり元気がないといかん。その元気をつけるために何を県政としてやるべきかということに相成るかと思います。

（質問）その元気を取り戻すために何が必要だとお考えですか。

（議長）それはもう、産業の活性化じゃないですか。

（質問）議会の立場からご覧になって、知事の産業政策とか、あるいは立地政策であるとか、その辺はどういうふうに評価されますか。

（議長）知事もこの問題については積極的ですね。私も田川、北川、野呂、鈴木県政と４代、一緒に県政に携わってやらしてもらったんですが、産業の推進につきましては、あらゆる角度から非常に積極的に取組を展開しているということは、自らもそこ

に突っ込んで、汗をかいているというあの姿を見れば、私は非常に鈴木県政、鈴木知事の姿勢としては、活性化については本当に評価をしております。やっぱり議会としても、これは鈴木知事のバックアップ、まさしく車の両輪であります。二元代表制であります。議会としてどうそこを支えていくのか、我々がどうそういうふうな政策に対して立案していくのか、あるいは国際戦略特区もそうじゃありませんか。あるいは海外等のグローバルなものの考え方、かなり積極的ですよね。

（質問）三重県議会はいろいろ通年制の導入とかですね、いろいろな議会改革やっているわけですけど、永田議長はこの１年間でどういう改革とか、そういう取り組みたいという具体的に何かありますか。議会改革の。

（議長）通年の問題については、実は私も議会改革推進会議の当初は委員だったんです。通年は、私一番最初から申し上げとったんです。通年にいこうじゃないか、と言って提案もしておったんですが、なかなか委員会の中では、それは拙速じゃないかと、一言で言えば。だから、４定例会をとりあえず２定例会で移行していこうやないかということで、２定例会制に移行したわけです。そのときも私は通年でいいじゃないかと言ってたんですけど、拙速と言われればそれもしようがないかなと思って私は引いたわけです。今回やっと通年に移行したということについて、私は、これはそれなりに私の思いは実現したなというふうに実は思っておるのが今の心境です。

（質問）もう通年制に入っているわけですけど、今後、通年制に限らず、議会のいろんな改革あると思うんですけども、どういうのに取り組みたいというのはあるんですか。

（議長）今、所信のところで申し上げましたように、いっぺん総括的なこともやることかなと。

（質問）そうすると、それは例えば、そういうものの今後の課題みたいなものを考える勉強会みたいなものを議会内で立ち上げるとか、そういうお考えというのはあるんでしょうか。

（議長）勉強会はやらなあかんけど、それはすでに議会改革推進会議あるじゃないですか。それで私は総括も含めて取り組んでいけばいいのだと思っております。

（質問）議会改革推進会議の中でということですか。

（議長）はい。それは新しく組織を立ち上げるということではない。そんな屋上屋なことはどうかとは思っていますけどね。

（質問）山本勝前議長が議会活性化のために１年で辞職されましたけども、それでもって活性化したと思いますか。豊富な人材が議会にはいるもんで自分は引くということなんですけども。

（議長）前議長は議長なりに非常に活発に議長の職をまっとうされたと、こういうように思いますし、とりわけ非常に三重県としては大きなイベント等がありましたし、本当にご苦労な１年だったなと、このように思っております。けれども、活性化というのはなかなかね。じゃあそれが活性化にということはちょっとどうかなとは思うんですが、私は流れをこうやって県議会としてここまでまいりましたけども、執行部側と議会側は取り柄が違うと私は思ってまして、山本議長が１年でという期間でお辞めになって今回のバトンタッチをいただいたことについては、議会人としてやってきた中では、２年が１年になっても議員としてはあまり大きなマイナス面はなかったんじゃないかと思いますし、前議長は前議長なりにですね、それなりにお役目を果たし、それなりに頑張ってこられて、いろいろと改革等についてはやられたし、それなりの実績は立てられたのかなと、こういうふうに判断はいたしております。

（質問）永田議長が誕生したことが議会の活性化ということでしょうか。

（議長）それは、これからひとつ、よく見とっていただきたいと思うんですが、私も所信表明じゃないけれど、とにかくいよいよ本当に４年の最後の年でございますし、今申し上げましたように私にとりましては集大成の１年でもありますし、全力投球で精一杯頑張らせていただきたいなと、こう思ってやるつもりでございます。もっともっと、三重県が元気な三重県であって、そのためには我々議員としては何をすべきかということを考えながら、全力で頑張りたいなと、本当に１日１日が私は勝負だというふうに認識をいたしておりますので、そこら辺はよく見とってください。頑張ります。

（質問）議長任期２年という形で決めて、去年の山本議長が変則的で１年なんですけど、本来的に永田議長は申し合わせ任期どおり議長は２年のほうがよろしいですか。それとも１年のほうがよろしいですか。

（議長）基本的にはどうでしょうね、ここで２年、１年という２つの歩みができてきたわけですので、そこら辺の評価っていうのは、それはそのときの人の資質、手腕にかかるとは思うんですが、２年がいいのか１年がいいのか、なかなか判断がつきにくいことではないかと思います。

（質問）前に申し合わせ任期を２年に決めた時にどういうお立場だったんですか。反対なのか、それとも申し合わせ任期２年に賛成したのか、どちらですか。

（議長）あのとき私は反対もしなかったですね。

（質問）ということは賛成なんですか。

（議長）そういう意向ならやむを得ませんなというスタンスでした。

（質問）要は分からんということですね。

（議長）この問題についてあまり議員がですよ、きっぱりと言ってしまうっていうことは、ちょっといろいろ私も考えるところあります。

（質問）議長と副議長にお伺いしたいんですけれども、お互いを県議会議員としてどのような印象を持っていたか、それぞれ一言ずつコメントいただければと思うんですが。お互いに議長は副議長、副議長は議長、どのような県議会議員として印象を持っていたか、少し人物評を教えていただきたいんですが。

（議長）私も副議長とは７年ですか、一緒に議員として三重県議会の中に、在籍させていただいておりますので、特に首長経験者であられるわけですから、我々は議員として歩んできましたけど、副議長は首長経験者としてずっとやってこられた、自分がひとつの長として町政を取り仕切ってきたわけですから、ちょっと私達とは立場が違ったわけですので、そういうことをいつも発言なされるので、非常に参考に私はなりました。そういった意味で、私は今回副議長になっていただいたのは、私もそれなりに頼りにしていきたいと思いますし、私達にないものをお持ちですしね。ですから、今回こうして１年間２人でやっていけるということについては心強いと、こんなような思いでいっぱいです。

（副議長）議員さんも５０人おるといろいろですね。そういうことです。

（質問）副議長にお伺いします。先ほどご自身のご挨拶の中でも町長の経験を活かしてというふうにおっしゃいましたけど、町長のお立場から町議会というものをご覧になってらっしゃいましたでしょうし、こうやって県議になられて県議としての立場としてこれまでやられてきた中で、その経験を活かして、具体的に副議長としてどういうふうなリーダーシップというのを発揮されたいというようにお考えになっていらっしゃいますか。

（副議長）広域自治体と基礎自治体の違いがずいぶん感じますね。だから基礎自治体はやっぱり、首長してますから、今日やろうと思ったら明日できる、そういう感じの部分ですから、だけど県政というのは非常に県民目線からすごく遠くて時間がかかるなという感じがします。そういう意味で、今日結果が出ませんから、だから一石を投

じながら、それの積み重ねがいつ芽生えるかなという、ここ７年やってきてそんな気がします。だけど、議会改革いろんなことを投げかけようとするけど結果がなかなか出てきにくいのが今の三重県、先進議会と言われる三重県議会かな、今ちょうどそこの壁というのか、そういう部分にぶつかっているのかな。だからそれをこれから私どもがどれだけやれるのか、やれないかも分からんけど、最大の努力はここでしておいて、次の新しい期に移していくということが役割かなとは感じております。

（質問）そうすると、副議長としてはやはり議会改革のこれまでの積み重ねをふまえてどうしていくのかというのは、やっぱり考え直さなきゃいけない時期、見直す時期というふうにお考えですか。

（副議長）はい。行政というのは常に進んでいるわけですから、議会改革もこれでいいっていうことはないわけですから、だから変えなきゃいかんところもあれば、ここのところをもうちょっと進めていかないかん、そういう部分もある。だから先ほど通年制の話もあったんですけれども、もう何回も言ってるんですけど、２６年度補正予算を２５年度にするっていうのは、これもありかなとは思うんですけど、やっぱり行政に携わってきたものは、それはやっぱりやってはいけないことではないのか、ましてや三重県は通年制ですから、３月３１日に議会開いて４月１日に開いても何もおかしくないわけですから、そこら辺のルールを築いていかないとせっかく通年制をやった意味が半減なり、本当に薄れていく気がしますので、時間はかかってもそれはやっぱり無駄な時間かも分からんけど、通年制をやっとる以上はそれをやっていくべきかなとは私は感じて、その辺ひとつひとつやっぱり直していくべき、直していくというより積み重ねていく必要があるんかなとは思います。

（質問）冒頭、想定していなかったとご発言あったと思うんですけども、これどういう主旨で言ったんでしょうか。

（副議長）まだ２期目ですからね、この前の所信表明に言われたので、なかなかそれをこの県議会で超えていくというのはない、そんなんだからないとかいうんじゃなくて、想定は全然してなかったわけなんですよね。だから心の準備も何にもしていませんから、だからこういう場所に座らされるというのは非常にちょっときついなというような気がします。前々からだいたい４期、５期辺りになると、今年は議長かな、副議長かなというので、それはこういう場所があるから心の準備はあろうかと思いますけれども、私の場合は何やろうと思ってきてますから、心の準備がないですから、昨日のまま明日議会行きたくないなというのが本来の心境やったかなと思います。だけど、それはそれでなったからには、やらなきゃいけないとは思っております。

（質問）そうすると、副議長に立候補した理由っていうんですかね、そこら辺、改めてどういったところでやりたいというか、今回こういう形になったんでしょうか。

（副議長）非常に申し上げにくいですね。だから、ともかく副議長になって、議長さんがどんなふうにやられるんかっていうのは、やはり押さないかん部分もあれば、やっぱり引かないかん部分もあれば、いろんなことがこれから出てくるかも分からないので、そこを副議長としてやはり県政の方向性を間違わないように進めるように県民のためにやっていく、県政をともどもやっていかないかんのかなとは思っております。

（質問）それともう１点。これはお二人に聞きたいんですけども、今回最大会派新政みえさんからは、議長、副議長にも出ていらっしゃらないんですけれども、今回その受け止めと、今後の議会運営をどうされていくかっていう意気込みをいただければと思います。

（副議長）昨日から所信表明の中で質問もあったんですけれども、やはり我々県議会議員は、県政執行部のそれを見ながら我々が提言していくという、だから目的は何かっていうと、県民のために県議会、県政はあるわけですから、新政みえがどうの、自民がどうのっていうんじゃなくて、やっぱり一番大事なことは、県民が今日の生活よりも明日の生活を幸せになるようにするのが我々の役割ですから、僕は新政みえのほうもこういうことはあったけれども、県民のためであったら、反対とか、そういうものは少ない、僕は良識ある新政みえと思っていますから、そういうことはない、県民のためにやっていただけるんかなとは思っております。

（議長）私も、結果として、こういうふうな結果に落ち着いたわけでございますけど、やっぱり議会としてはですね、やっぱり二元代表制で両輪でいかないかん、そんな中で思いはそう違うことはないと思っていますし、いよいよそういうことで門出をしたわけでございますから、そこら辺はもうかなぐり捨ててですね、このような問題については何がということを絶えず考えながら、一緒になって力を合わせてやることが大事かなと、こういうふうに思っておりますので、そう私はこの件についてはこだわってはおりません。

（以上）　１７時３７分終了